

ノイフタR シャッター付「スチールスラット」 シャッター本体・ガイドレール(手動タイプ・電動タイプ) 施工要領書

この度は、三協アルミの商品をご採用いただきありがとうございます。

商品の組み立ておよび取り付けには、この要領書をお読みになり、正しく美しく仕上げてください。

同梱されている取扱説明書は、必ず施主様へお渡しください。

組み立ておよび取り付け上の注意

ここに示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。
施工にあたって必ずお守りください。

- ①窓シャッター以外への転用および改造は行なわないでください。
- ②指定の部品およびオプション品以外は、使用しないでください。
- ③ねじ止め箇所は、指示してあるねじを全て確実に止めてください。
- ④電気配線工事は、電気工事士の資格が必要ですので、必ず電気工事店様へご依頼ください。
- ⑤シャッター本体は重い(最大約70kg)ので、二人以上で扱うなど、取り付けには十分ご注意ください。
- ⑥積雪地域および凍結のおそれのある地域には、取り付けないでください。
- ⑦組み立て・取り付け完了後、正しく作業が行われたこと、開閉作動や施解錠が正常に行なうことができること、
および、使用上の不具合がないか確認してください。

梱包内容

- ・開梱時に種類と数量を確認してください。(部品袋の内容にもご注意ください。)
- ・商品に破損や異常がないか確認してください。
- ・万一商品に破損や異常がある場合、または部品が不足している場合には、販売店または三協アルミニウム工業(株)までご連絡ください。

■標準部品

●シャッター本体

手動タイプ		
区分	品種	数量
		単窓 連窓
本体	シャッター本体	1 2
	小ねじトラス M5×12	4本 8本
部品	施工要領書	1部 1部
	取扱説明書	1部 1部

電動タイプ		
区分	品種	数量
		単窓 連窓
本体	シャッター本体	1 2
	小ねじトラス M5×12	4本 8本
部品	操作スイッチ	1 2
	圧着端子	3 6
	防水テープ	2 4
	施工要領書	1部 1部
	取扱説明書	1部 1部

●ガイドレール

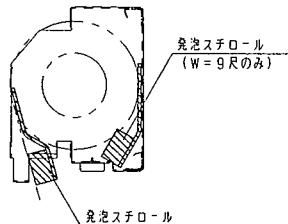
手動タイプ		
区分	品種	数量
形材	ガイドレール	2本
	中柱 (シャッター連窓タイプのみ)	1本
部品	小ねじ平 M4×7×8	6~14本

電動タイプ		
区分	品種	数量
形材	ガイドレール	2本
	中柱 (シャッター連窓タイプのみ)	1本
部品	小ねじ平 M4×7×8	6~14本

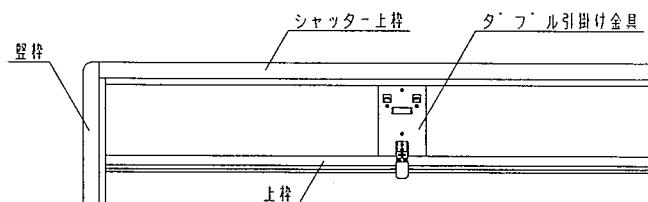
①シャッター本体の取り付け

注意 → シャッター取り付けの際には、以下の点に注意してください。

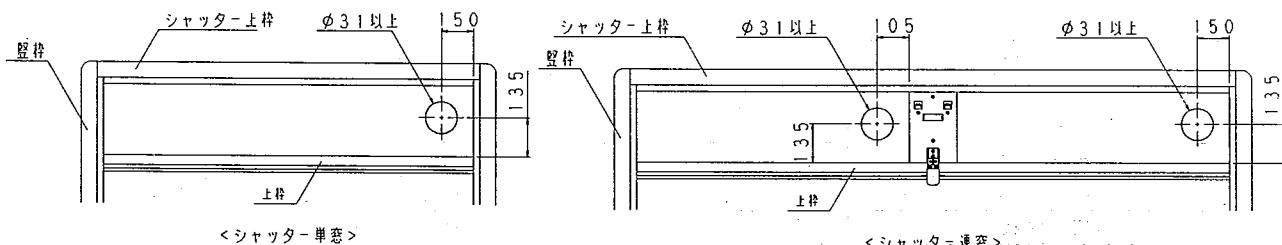
- ・サッシ枠の水平・垂直が出ていることを確認してください。水平・垂直や枠の取り付けに不備がありますと、シャッターの作動不良の原因となりますので、必ず確認してください。
- ・製品保護用の発泡スチロールをシャッター取り付け前に必ず取り外してください。発泡スチロールを取り外さないと、シャッターに巻き込んで作動不良の原因となります。



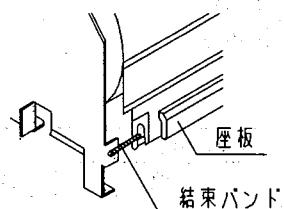
- ・シャッター取り付けは二人以上で手袋をして行ってください。素手で行なうとケガをするおそれがあります。
- ・シャッター連窓タイプを取り付ける場合、軸体にダブル引掛け金具(枠梱包)が取り付けてあることを確認してください。この部品がないと、シャッターは取り付けることができません。



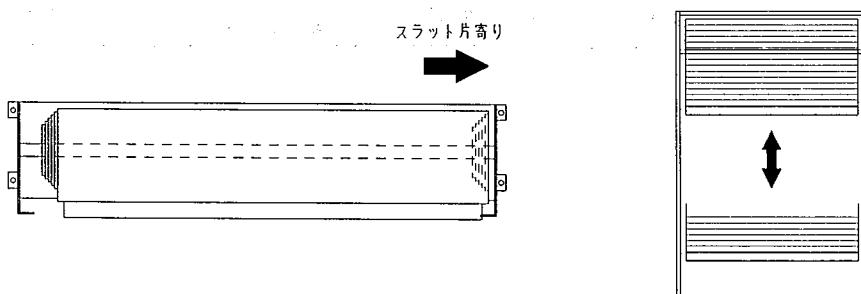
- ・電動タイプを取り付ける場合、軸体にスイッチコードが通る穴(Φ31以上)をあけてください。



- ・シャッターを取り付けるまで結束バンドを取り外さないでください

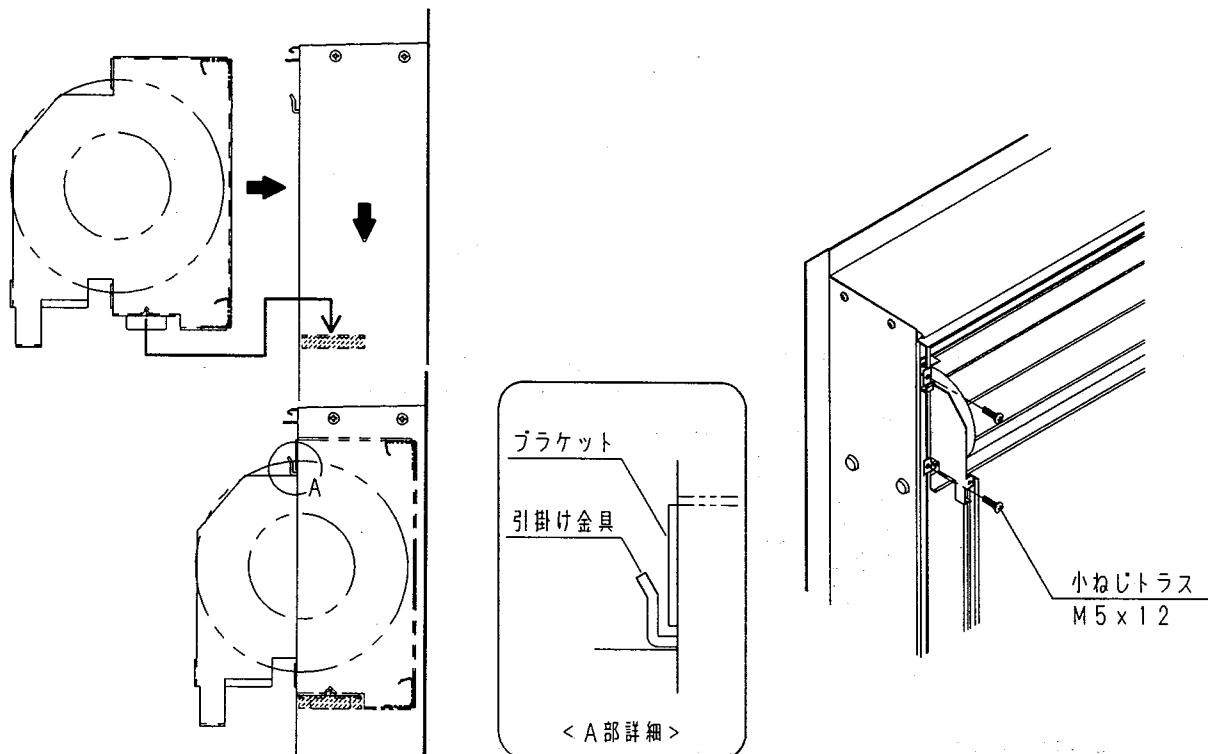


- ・輸送中、スラットが片側へ片寄っている場合があります。ガイドレールを付けずに数回開閉させて、片寄りを直してください。



シャッター単窓タイプ(手動・電動)

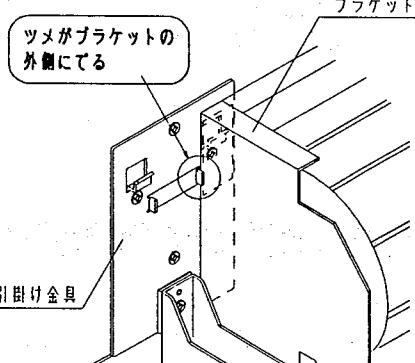
- ①シャッターボディを縦枠のブラケット受けの上にのせてください。
- ②ブラケットの凸部がブラケット受けにはまり込むまで押し込んでください。
- ③縦枠上部の引掛け金具にブラケットが掛かっていることを確認して、小ねじトラスM5×12にてねじ止めしてください。



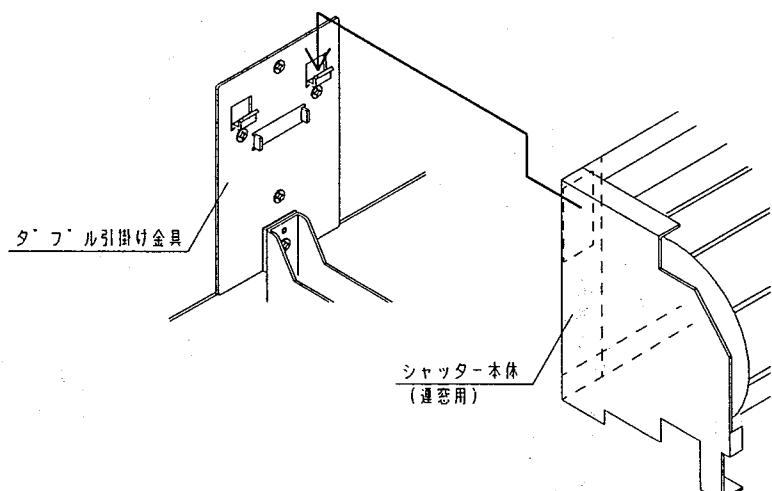
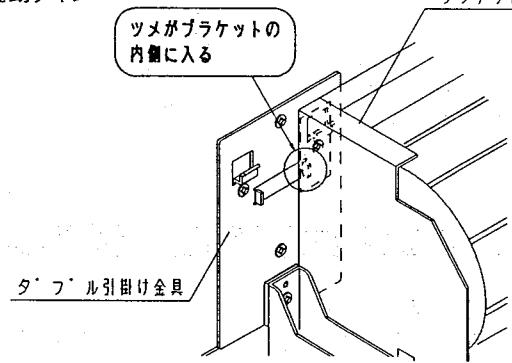
シャッター連窓タイプ(手動・電動)

- ①シャッターボディを縦枠側はブラケット受けにのせ(同上)、中央側はダブル引掛け金具にのせてください。
- ②両側とも引掛け金具に掛かっていることを確認して、縦枠側のみ小ねじトラスM5×12にてねじ止めしてください。

■手動タイプ



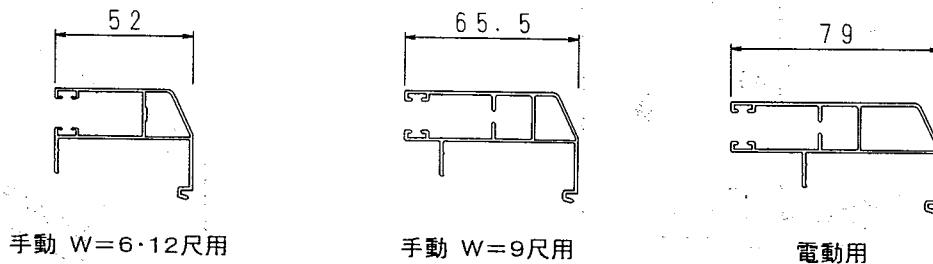
■電動タイプ



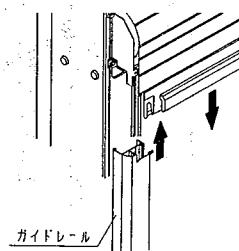
②ガイドレールの取り付け

注意 ガイドレールを取り付ける前に、以下の点を確認してください。

- 手動タイプと電動タイプは、ガイドレールが異なります。また、手動タイプのW=6尺・12尺とW=9尺は、ガイドレールが異なります。形状確認の上、取り付けてください。

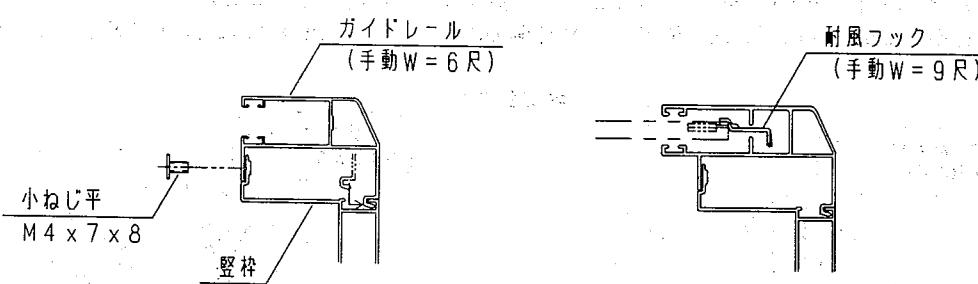


- シャッターを少し引き出し、ガイドレール上部に座板を引き込んでください。



- 縦枠とガイドレールを嵌合させて、小ねじ平M4×7で取り付けてください。

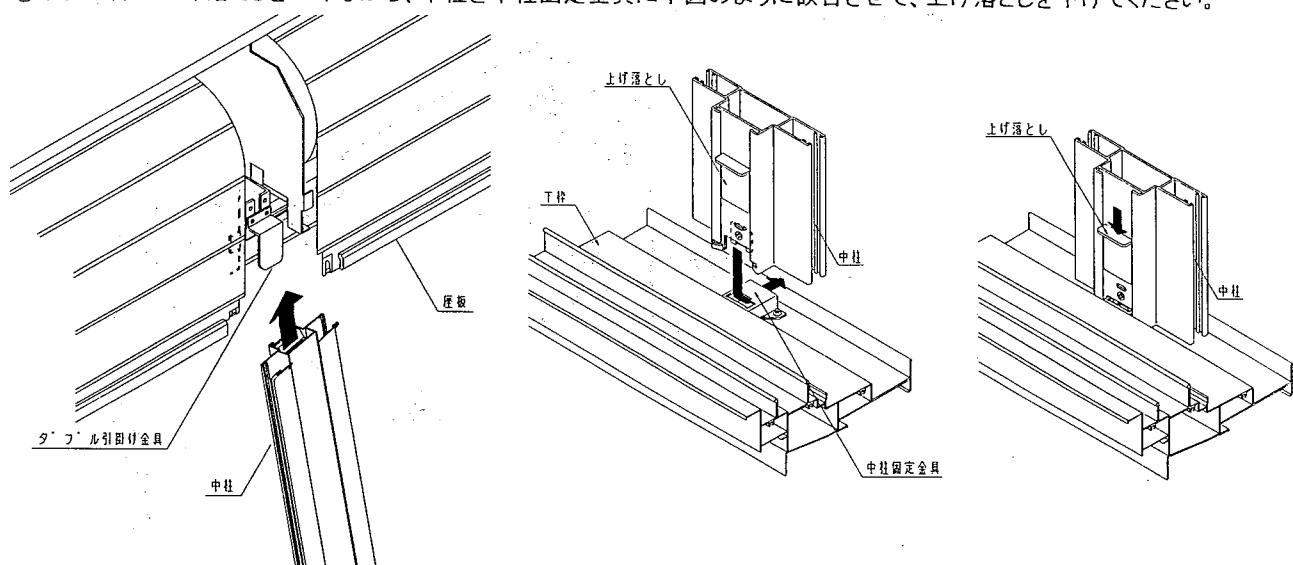
(W=9尺タイプの場合、シャッターカーテン両端部の耐風フックがガイドレールの溝に入っていることを確認した上で、ガイドレールの取り付けを行ってください。)



③中柱の取り付け(シャッター連窓タイプのみ)

- 中柱の上部レール部に座板を引き込みながら、ダブル引掛け金具にいっぽいまで差し込んでください。

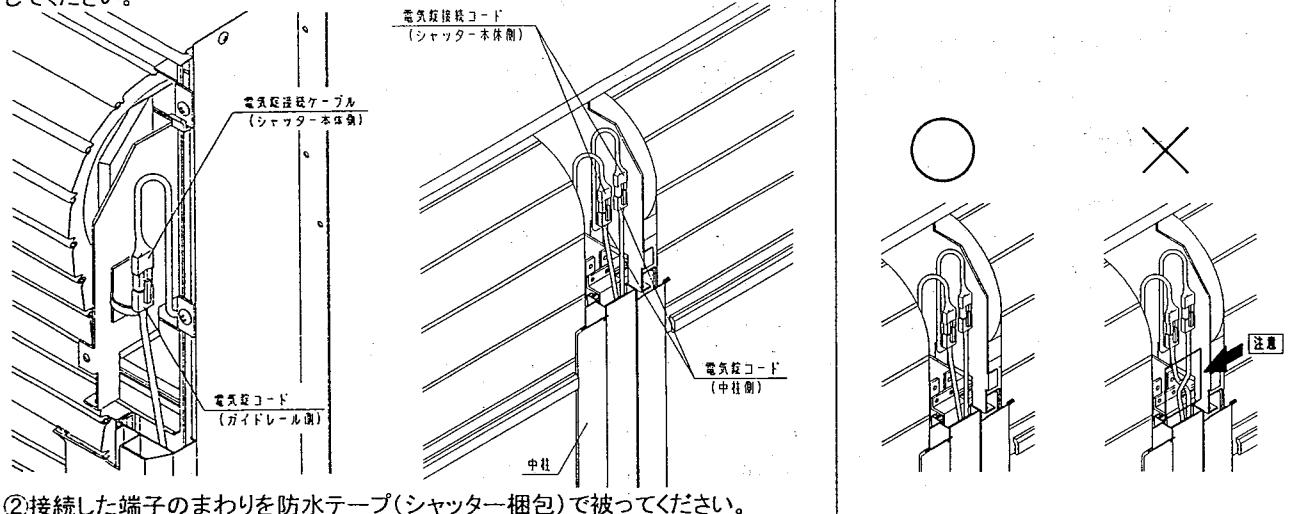
- 中柱下部の上げ落としを上げながら、中柱を中柱固定金具に下図のように嵌合させて、上げ落としを下げてください。



④電気錠コード、操作スイッチの接続(電動のみ)

電気錠コードの接続

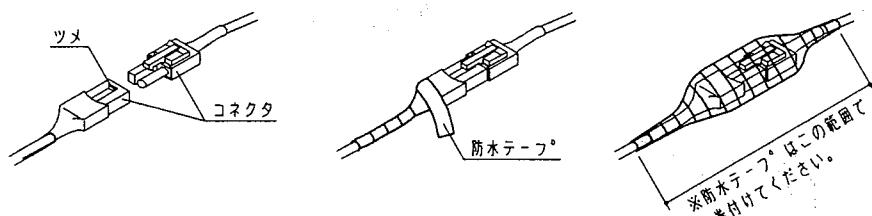
- ①ガイドレールおよび中柱(シャッター連窓タイプのみ)の電気錠コードと、シャッターボディの電気錠接続コードを接続してください。



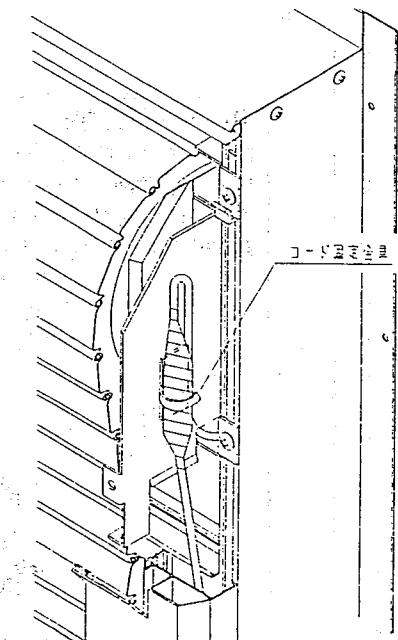
- ②接続した端子のまわりを防水テープ(シャッターボディ側)で被ってください。

注意 接続端子には、漏電を防ぐため、必ず防水テープを以下の手順にて確実に巻いてください

※防水テープはコネクタのツメ側から巻いて下さい。逆から巻くとコネクタの接合部が外れやすくなります。



- ③コードはシャッターボディのコード固定金具に取り付けてください。

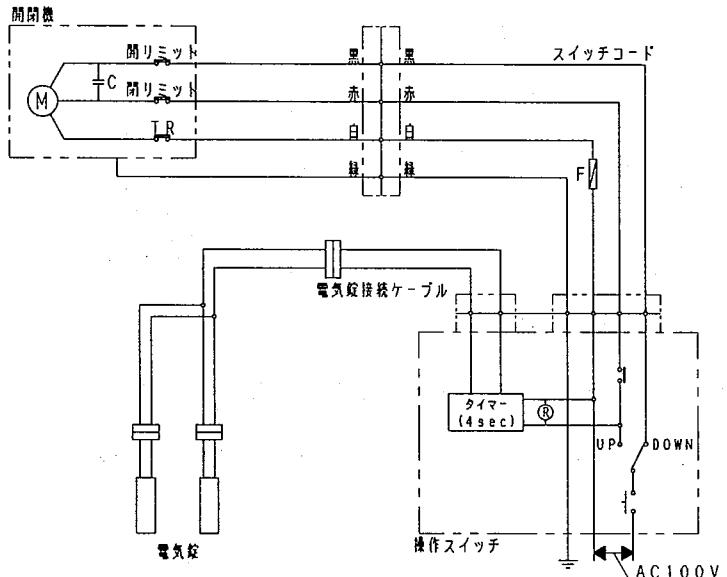


操作スイッチの接続

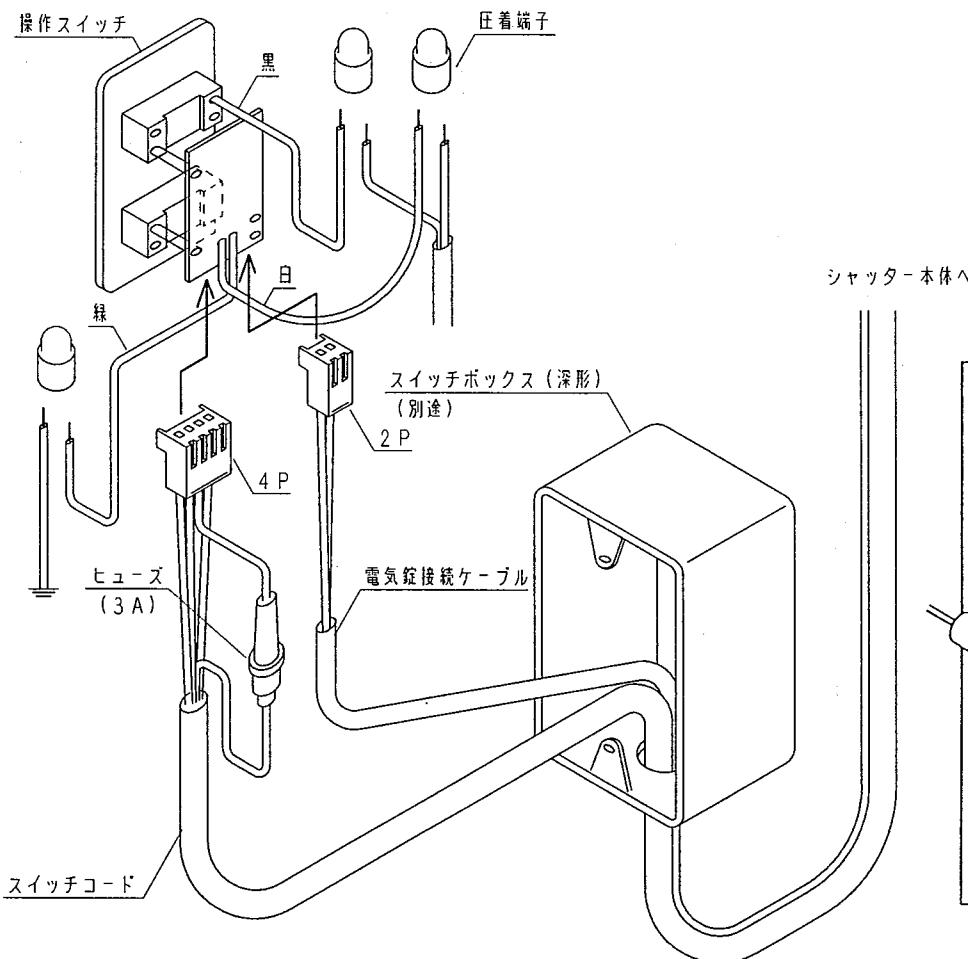
注意 電気工事は必ず電気工事店様にご依頼ください。

- ・操作スイッチは、AC100V以外の電源は使用しないでください。
- ・屋外に取り付けないでください。
- ・スイッチボックスは、1個用スイッチボックス深形を使用してください。

■結線図



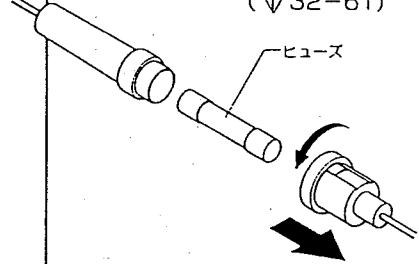
■結線方法



■ヒューズの交換

ヒューズが切れている場合、現地手配の上交換願います。ヒューズは、操作スイッチの裏側についています。

- 使用ヒューズ… $\phi 6.4 \times 30\text{mm}$ ガラス管ヒューズ3A (▽32-61)



⑤調整

リミット調整

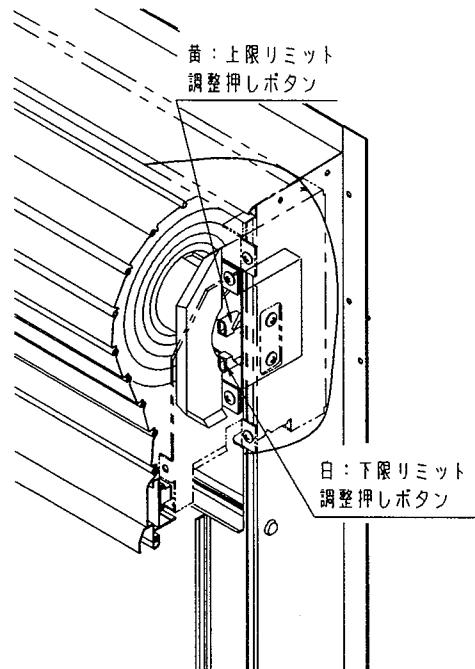
(上下限リミットが下図の○印の場合、調整は不要です。)

- シャッターカーテンの停止位置は出荷時調整済みですが、微調整の必要がある場合は正面ケースを外して、下記に従ってください。
- 上限リミットの調整方法**

 - 黄色のリミット調整押しボタンをカチッという音がするまで一杯に押してください。(リミット調整押しボタンが下がった位置で保持されます。)
 - 上限リミットの希望停止位置に達したとき、操作スイッチによりモーターを停止させます。
 - 黄色のリミット調整押しボタンを再度押します。(リミット調整押しボタンが元の位置に戻ります。)
これで上限リミットがセットされます。

- 下限リミットの調整方法**

 - 白色のリミット調整押しボタンをカチッという音がするまで一杯に押してください。(リミット調整押しボタンが下がった位置で保持されます。)
 - 下限リミットの希望停止位置に達したとき、操作スイッチによりモーターを停止させます。
 - 白色のリミット調整押しボタンを再度押します。(リミット調整押しボタンが元の位置に戻ります。)
これで下限リミットがセットされます。

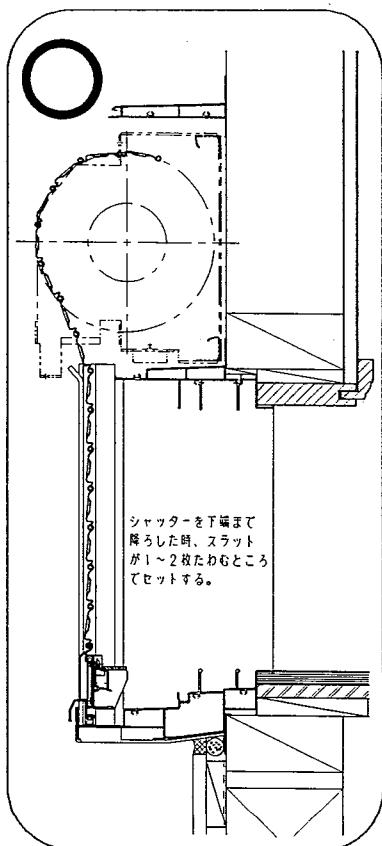
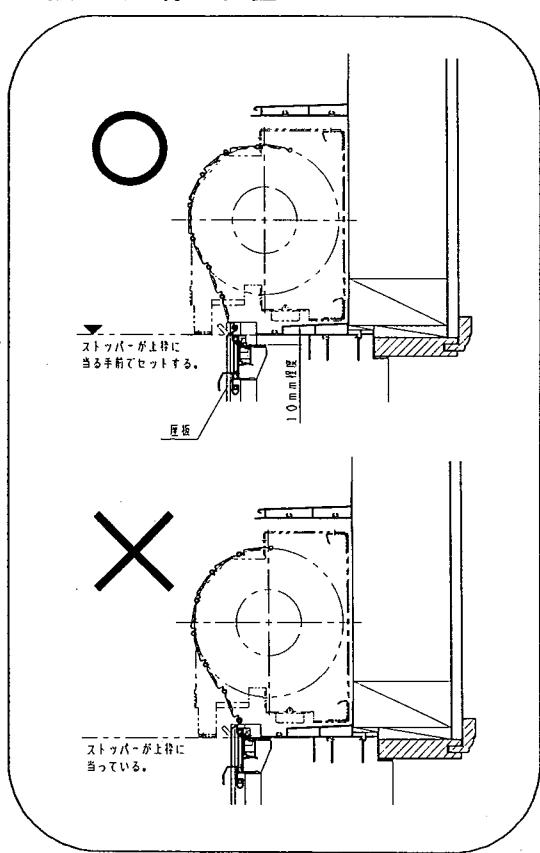
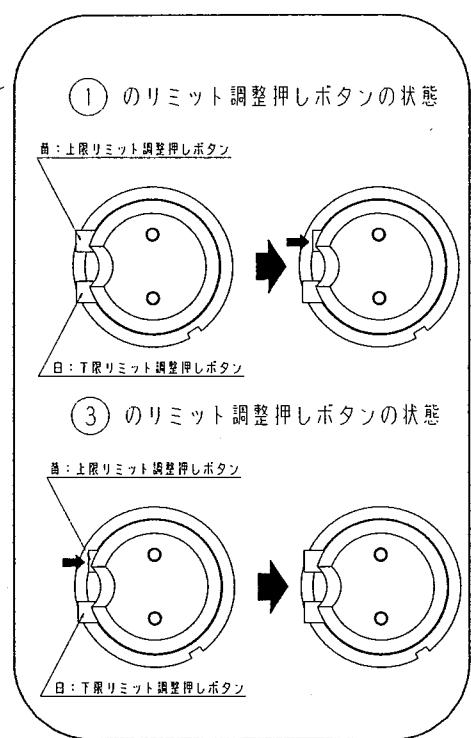


- 調整ボタンを放すか、操作スイッチの停ボタンを押さないとモーターは回転し続けます。
停止位置をオーバーランさせないように注意して下さい。
- シャッターを連続運転させると、モーターの温度が上昇し停止することがあります。10分ほど待ってから調整をはじめてください。

上限リミット停止位置

下限リミット停止位置

(例) 上限リミットの調整



⑥外観および作動検査

検査項目	検査器具	検査内容
シャッター	目視	シャッターのへこみ、傷がないことを確認してください。
ガイドレール	目視	ガイドレールの変形、傷がないことを確認してください。
作動状態	目視	シャッターの上昇・下降でスラットが円滑に作動することを確認してください。
自動ロック装置	触手	シャッターが全閉した状態で座板を持ち上げ、自動ロックの作動を確認してください。
障害物検知装置	触手	※ シャッターダウン中に、座板を手で止めて下さい。障害物に当たるとモーターが空転することを確認してください。
リミット位置	—	全開・全閉時、座板が正しい位置で停止するか確認してください。

※正面ケースを付けていない場合、障害物の当たる高さにより空転する前にシャッターボックス内で巻きがみだれる場合がありますが、巻き戻せば正常な状態にもどります。

⑦シャッターが動かない・動きがわるい場合

こんな時	ここを確かめてください	こう対処してください
スイッチを押しても動かない	正しく結線されていますか？	「操作スイッチの接続」P. 6参照
	ヒューズが切れていませんか？	「ヒューズの交換」P. 6参照
	リミット調整がされていますか？	「リミット調整」P. 7参照
	連続して操作しませんでしたか？	10~20分程休ませた後操作してください。
電気錠が作動しない	コネクタが正しく接続されていますか？	「電気錠コードの接続」P. 5参照 「操作スイッチの接続」P. 6参照

406.7

60

